

私が育った石川県の実家は、周囲を山林に囲まれた緑豊かな環境に建っていました。実家の暖房には(デザインは現代的でしたが)薪を使う暖炉を使っており、2年生まで通った小学校も最近では珍しい木造校舎でした。廊下も階段も木造で歩くと床がきしむような古い校舎でしたが、後に転校したコンクリート製の新しい小学校にくらべると、木の温もりや優しい柔らかさがあったように思います。

緑のエッセー

そんな私ですが、昨年国産材を使って森林を育てる「木づかい運動」のポスターやパンフレットの仕事をさせて頂くまで、実は国産材の製品を使うことが森林を育てることにつながるということが知りませんでした。それまでは、国産材を使った割り箸を使うと日本の山から緑が失われてしまうのではないかと思っていたんです。

ところが、本当は国産材を利用することで山村が活性化し、森林が元気に

なると知って、それからは木材を使った製品が国産材かどうかを気にするようになったようになりました。

木の道具で思い出すのは、学生時代にやっていた卓球です。卓球で使うラケットはすべて木製。新しいラケットを買おうと、まず持ち手の部分を、自分の指の形に合わせて削ります。最初は硬いのですが、使っていくうちに軟らかく丸くなり、手にフィットしてきます。そんなに強く握っているつもりはないん



ですが、指の形に凹んでくるんですね。そうしてなじんできたところに板が小さくなってきた、買い換えなくてはならなくなるのがとても残念でした。

最近、「木づかい運動」のポスターを見た知人から、「あれはどういう意味なの？国産材の割り箸を使うといいの？」と質問されるようになりました。そんな時は、国産材を使うことで、きちんと手入れが行なわれて森が守れるんだよ、と説明しています。これから、

国産材を利用した製品には、そのことがきちんと表示され、国産材製品が使われるようになるといいですね。

出身地の石川県では、芸文協いしかわによる「芸術の森プロジェクト」が始まりました。コンサートや展覧会などの活動を通して、植林や環境保全を呼びかけるプロジェクトです。私も、このプロジェクトのサポーターとして「木づかい」の大切さを身近な所からお伝えしていけたら、と思っています。

6月20日生まれ。
石川県出身のファッションモデル。青山学院女子短期大学卒業。中学時代、卓球で全国大会ベスト16入りを果たす。
公式ブログ：三枝ころこの「それから」
<http://superballnet/?cat=20>



木づかい運動ポスター